

## ヒュームとカント：近代認識論の基本図式再考

滝沢正之（駒澤大学）

「ヒュームからカント」へという発展図式、あるいは、「ヒューム対カント」という対決図式は、近代哲学史を語るさいの一つの定跡であった。しかし、両者についての個別研究が進展するにしたがい、この手の大らかな図式は、一般向けの入門書や概説書を除いては見られなくなっている。しかし、比較研究は、個別研究では見えにくい論点を浮彫りにしてくれるという利点をもつはずである。そこで、本提題は、現代的な解釈を踏まえたうえで、あらためてヒュームとカントを対決させることを目指す。そのさい、とくに検討の対象としたいのは、近代認識論として両者が共有する観念論的な発想である。自然主義や外在主義といった方向性を異にする発想が力をもち、ヒューム解釈やカント解釈にも影響を与えているような状況で、二人の観念論的な発想はそれぞれどのように評価されるべきなのであろうか。